

令和 6 年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

音楽科 1 年生

1 日常の学習状況について

1 年生の音楽科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 授業への取り組みは積極的に取り組む姿勢が多く見られる。
- (2) 自己評価表やワークシートを活用し一人一人の授業を振り返ることで、知識理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができています。
- (3) 授業内で、作曲家や楽曲の解説など ICT の授業として動画を活用している。
生徒の知覚・感受する能力は、柔軟で素直に表現できているが、文章力が乏しく自分の思いや意図を上手く表現できていない生徒もいる。
- (4) 1 学期に「リズム練習」を行った。「リズム練習と表現」については、基礎的なリズムであり比較的良くていた。2 学期には「アルトリコーダー」の授業をを予定している。

2 授業での生徒の様子を踏まえて

- (1) 本時の目標やねらいをホワイトボードによっての提示を行っているが、より細かくわかりやすく説明を行う必要がある。また、より効果的な授業での I C T 機器の活用方法について検討していく必要がある。

3 学力に関する状況

1 より、本校の 1 年生の音楽科の学力については、以下のような傾向がみられる。

- (1) 関心意欲は高く、積極的に取り組める。「歌唱・合唱」の授業では音楽祭とタイアップさせ、パート練習や発声練習など、自主的に活動し、お互いを高め合っていくことがこれからの目標となる。
- (2) 表現の工夫に関しては、自分を素直に表現できる生徒が多い。正確なリズム表現と今後「歌唱」や「器楽」での豊かな表現力を身に付けさせる。
- (3) 定期考査により、授業での内容の確認、ワークシート学習をすることにより、知識・理解を深めることができる。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ①「鑑賞」では音楽表現の共通性や固有性を自分なりに考え、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるような授業の進め方、教材やタブレット・ワークシート等の使用が必要である。
- ②「歌唱・合唱」は、発声・言葉の発音・身体の使い方等、また「器楽」では、身体の使い方等の創意工夫を生かした表現ができるための技能を身につけさせる必要がある。
- ③「リズム練習」「アルトリコーダー」については、正確なリズムでの表現ができるように細やかな指導に取り組むようにする必要がある。

(2) 指導面

以下のような指導を行い一定の成果が感じられた。

- ① 「鑑賞」の授業における「曲想の変化や関わり」を感じ取ることができていた。また、「日本の伝統音楽」を親しみその良さを味わうことができ、「鑑賞」への意欲が高まった。
- ② 「歌唱・合唱」、「アルトリコーダー」では、技術を高め、正確な音高と曲想に合った表現力を作れるようにする。また、自分の思いをことばや文章、楽器で表現できるように指導していく。
- ③ 「リズム練習」の指導を全学年統一したものにしていくことにより豊かな合唱や器楽の表現に繋げていきたい。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ①授業に対して、また表現に対して自分なりにどう取り組めたか、ワークシート等で自己評価を行い、フィードバックを通して音楽の表現を高めていく。
- ②特に「鑑賞」の授業ではホワイトボードやDVD等の視聴覚教材を多く活用して視覚的に解説する事によって理解を深めていく。また、「鑑賞」の動画等タブレットを使用した授業への取り組みを考えていく。

(2) 指導面

①指導計画の見直し

実際の授業の進み具合をもとに柔軟に指導計画の見直しを図り、無理のない指導計画を実施する。

- ②合唱指導において変声時期の幅が広いので、個に応じた配慮を心がけ、自信をもたせて、わかりやすく見通しをもった指導を行う

6 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」や「実技試験での表現」などを確認して改善を行う。

令和 6 年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン
音楽科 2 年生

1 日常の学習状況について

2 年生の音楽科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 授業への取り組みは積極的に取り組む姿勢が多く見られる。
- (2) 自己評価表やワークシートを活用し一人一人が授業を振り返ることで、き知識理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができています。理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができています。
- (3) 授業内で、作曲家や楽曲の解説等など ICT の授業として動画を活用している。
生徒の知覚・感受する能力は、豊かな創造性で素直に表現できており、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできる生徒が多い。

(4) 1 学期に「リズム練習」を行った。「リズム練習と表現」については、「基礎的」・「発展的」なリズムの表現は良くできていた。

2 授業での生徒の様子を踏まえて

- (1) 本時の目標やねらいをホワイトボードによつての提示を行っているが、より細かくわかりやすく説明を行う必要がある。また、鑑賞以外での I C T 機器の使用を効果的に取り入れた授業に取り組む必要がある。

3 学力に関する状況

1 より、本校の現 2 年生の音楽科の学力については、以下のような傾向がみられるものとする。

- (1) 関心意欲は高く、積極的に取り組める。「歌唱・合唱」の授業では音楽祭とタイアップさせ、パート練習や発声練習など、主体的に活動し、お互いを高め創意工夫していくことがこれからの目標となる。
- (2) 表現の工夫に関しては、音楽表現に対する思いや意図を素直に表現できる生徒が多い。正確なリズム表現と「歌唱」や「器楽」での豊かな表現力を身に付けさせる。
- (3) 定期考査により、授業での内容・質問、ワークシート学習をすることにより、多くの知識を高めることができる。

4 教科の課題

(1) 学習面

①「鑑賞」では音楽表現の共通性や固有性を自分なりに考え、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるような授業の進め方、教材やタブレット・ワークシート等の使用が必要である。

②「歌唱・合唱」は、発声・言葉の発音・身体の使い方等、また「器楽」では、身体の使い方等の創意工夫を生かし、曲にふさわしい表現ができるための技能を身につけさせる必要がある。

③「リズム練習」と「アルトリコーダー」については、正確なリズムでの表現ができるように細やかな指導に取り組むようにする

④鑑賞能力を高めつつ、音楽的な表現力にもつなげ、曲の構成、歌詞の内容、表現、豊かな響きの感覚を味わわせ、ハーモニーの感覚を身に付ける。

(2) 指導面

- ① 「鑑賞」の授業における「曲の構成」に注目することや「曲想の変化」を感じ取ることができていた。また、「オペラ」を親しみその良さを味わうことができ、「鑑賞」への意欲が高まった。
- ② 「歌唱・合唱」では、技術を高め、正確な音高と曲想に合った表現力を作れるようにする。また、自分の思いや意図をことばや文章、演奏で表現できるように指導していく。
- ③ 「リズム練習」の指導を全学年統一したものにしていくことにより豊かな合唱や器楽の表現に繋げていきたい。

5. 授業改善について

(1) 学習面

①授業に対して、また表現に対して自分なりにどう取り組めたか、ワークシート等で自己評価を行い、フィードバックを通して音楽の表現を高めていく。

②特に「鑑賞」の授業ではホワイトボードやDVD等のタブレット、視聴覚教材を多く活用して動画等での視覚的な解説によってより理解を深めていく。

(2) 指導面

①指導計画の見直し

実際の授業の進み具合をもとに柔軟に指導計画の見直しを図り、無理のない指導計画を実施する。

6 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」や「音楽授業の評価」など確認をして改善を行う。

令和 6 年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

音楽科 3 年生

1 日常の学習状況について

3 年生の音楽科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

- (1) 授業への取り組みは意欲的で明るく前向きに取り組む姿勢が見られる。
- (2) 自己評価表やワークシートを活用し一人一人が授業を振り返ることで、き知識理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができています。理解や表現、技術の向上について、個々へのアドバイスができています。
- (3) 授業内で、作曲家や楽曲の解説など ICT の授業として動画を活用している。
生徒の知覚・感受する能力は、豊かな創造性で素直に表現できており、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできる生徒が多い。

2 授業での生徒の様子を踏まえて

- (1) 授業評価アンケートの結果より、本時の目標やねらいをホワイトボードによつての提示を行っているが、より細かくわかりやすく説明を行う必要がある。また、鑑賞以外での I C T 機器の使用を効果的に取り入れた授業に取り組む必要がある。

3 学力に関する状況

1 より、本校の現 3 年生の音楽科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- (1) 表現の工夫に関しては、意欲的に考えて工夫していく力を身に付けさせたい。「歌唱・合唱」の授業では音楽祭とタイアップさせ、パート練習や発声練習など、主体的に活動し、お互いを高め創意工夫していくことがこれからの目標となる。
- (2) 楽典・知識に関しては、実技に取り組みながら触れてはいるが、定着が難しい生徒もいる。定期考査前は、ワークシートや音楽ワークを使用して復習させることで、学習内容の定着を図っている。
- (3) 定期考査では、音楽ワークを活用し、知識を深めることができる。テスト後も繰り返し学習に役立てることができる

4 教科の課題

(1) 学習面

- ①「鑑賞」では音楽表現の共通性や固有性を自分なりに考え、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるような授業の進め方、教材やタブレット・ワークシートの使用等が必要である。
- ②「歌唱・合唱」は、発声・言葉の発音・身体の使い方等、また「器楽」では、身体の使い方等の創意工夫を生かし、曲にふさわしい表現ができるための技能を身につけさせる必要である。
- ③楽曲のもつ様々な音楽的特徴について思考・判断したことを「歌唱・合唱」や「器楽」で表現できるような指導の工夫が必要である。

(2) 指導面

- ① 「鑑賞」の授業における「日本の伝統音楽」を親しみその良さを味わうことができ、「鑑賞」への意欲が高まった。
- ② 「歌唱・合唱」では技術を高め、正確な音高と曲想に合った表現力を作れるようにする。また、自分の思いをことばや文章、楽器で表現できるように指導していく。
- ③ 「リズム練習」と「アルトリコーダー」については、正確なリズムでの表現ができるように細やかな指導に取り組むようにする。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ① 自己表現のみならず、グループ活動の実施・自己評価ができる資料により、フィードバックを通して音楽の表現能力を高めていく。
- ② 教室のスペースを有効的に活用できるような工夫する。(教材機器の利用) また、「鑑賞」のより多くタブレットを使用した授業への取り組みを考えていく。

(2) 指導面

- ① 実際の授業の進み具合を基に、指導計画の見直しを図り、全領域{表現(歌唱・器楽・創作)鑑賞}にわたって無理のない指導計画を実施する。
- ② 特に「鑑賞」の授業ではホワイトボードやDVD等の視聴覚教材を多く活用して視覚的に解説する事によって理解を深めていく。

6 成果の確認

成果については、「定期考査の正答率」や「音楽授業の評価」など確認をして改善を行う。